

高田短期大学通信



巻頭インタビュー	P2-P3	学生自治会、部活動、ボランティア活動支援室	P12
子ども学科、育児文化研究センター、委託訓練生インタビュー	P4-P5	卒業式・入学式、新入生研修、キャリア支援センター	P13
オフィスワークコース	P6-P7	着任のみなさん、入試広報活動、同窓会	P14
介護福祉コース、介護福祉研究センター、外国人留学生支援室	P8-P9	人生余滴、人事、公告	P15
仏教教育研究センター、仏教行事委員会、研究余滴	P10	就職状況一覧	P16
学生相談室・保健室・カウンセリング室、図書館公開講座	P11		

今回は、野呂学科長と清水谷学長に、キャリア育成学科のことや、高田短期大学（以下親しみを込めて高短）が大切にしている学びについてお話いただきました。これから高短に入りたいと思っている高校生みなさんにも、この学校のことがよくわかる、すてきなお話でした。



清水谷正尊学長（左）と野呂健一キャリア育成学科長（右）

キャリア育成学科の特色

野呂先生 キャリア育成学科には、オフィスで働く人になるための「オフィスワークコース」と介護福祉士になるための「介護福祉コース」の2つがあります。ずいぶんちがうコースのように思われるかもしれませんが、でも、この学科でいちばん大切にしているのは、どちらのコースでも「1人の人として、社会でしっかり生きていくための力」つまり、社会人としての基礎力を身につけてもらうことです。これが、2つのコースに共通する大きな目標です。

社会人としての基礎力



学長 高短の学生さんには、自分の力をしっかり発揮しながら、まわりの人を思いやり、社会の中で役立つような人になってほしいなと思っています。そのために大切なのが、「一人の人間として、そして社会人としての土台となる力（基礎力）」、つまり人間力ですよ。私たち高短は、仏教の教えを大切にしている短大です。この『社会人としての基礎力』という考え方は、仏教の精神とも深く通じるものがあります。そしてこれは、キャリア育成学科に限らず、子ども学科にも共通する、高短全体として大切にしている教育目標だと感じています。

野呂先生 具体的に身につけてほしい力は、「コミュニケーション力」と「チームワーク力」かな。社会に出たら、気の合う人だけでなく、いろいろな人と一緒に仕事をするのが当たり前です。そんなときに大事なのが、この2つの力です。

高短では、グループでコミュニケーションを取りながら何か一つのものを作り上げるという演習形式の授業

なんかもあります。

正規の授業以外にも、例えば学園祭の出し物作りをゼミの全員で取り組んでもらってます。ゼミには、まだあまり話したことがない人もいますので、うまくいかないことやぶつかることもあるんですよ。でも、それを乗り越えてうまくいくと、自然と「人と話す力」や「協力する力」が身についていきます。

学長 学園祭は、多くの学生が楽しんで取り組んでくれていますよね。授業のときとはまた違った、生き生きとした笑顔を見られるのが、とても嬉しいですね。

地域とつながる実践的な学び

野呂先生 高短の外へ出かけていっての活動もいろいろあります。オフィスワークコースでは、ゼミのテーマとして学生達が地元津市の寺内町や榊原温泉地域の地域活性化に携わっています。寺内町のほうは10年近く続いています。

ボランティア活動としては、オフィスワークコースの学生が、授業での学びを活かして高齢の方にパソコンを教える教室を手伝ったりしています。介護福祉コースの学生は、介護の現場でお手伝いをしたりしています。

こうした活動を通して、自然に「人と上手にかかわる力」や「協力して物ごとに取り組む力」が身についていきます。また、オフィスワークコースでは「社会体験実習」という実習を30年近く続けています。

社会体験実習とは

野呂先生 「社会体験実習」では、1年生の夏休みに、約10日間、企業での仕事を体験します。前期に学んだことを活かしながら実習に取り組み、自分の苦手なことや、これからがんばるべきことに気づく良いチャンスになります。ふだんあまり知らなかったような仕事の会社にも行くので、自分の視野が広がり、卒業後の進路を考えるとときにもとても役に立ちます。

社会体験実習をふり返るための工夫

野呂先生 高短では、学校の外に出ていろいろな実習を行います。実習では、「ふり返り」がとても大切です。そこで、学生が自分の実習をしっかり見直せるように、「ルーブリック評価」という方法を使っています。これは、実習先の担当の方が、いくつかの項目に分けて「良かったところ」や「もっとがんばったほうが良いところ」をわかりやすく書いてくださるものです。それをもとに、学生は自分の成長をふり返り、これからの学びの目標を立てることができます。



また、実習が終わったあとに、「反省会」というふり返りの会を行っています。発表するのは代表数名ですが、この会には、実習に行った学生全員が参加します。学生が体験を発表をしたあと、実習を受け入れてくれた企業の方から、一人ひとりコメントをいただきます。このコメントがとても貴重で、発表した学生だけでなく、参加した学生全員にとって、学びが多く、成長につながる大切な時間になっています。

学長 他の学生の発表を聞くと、「こんな会社もあるんだ」とか「こんな仕事もあるんだ」って新しい発見がありますよね。自分とは違う実習の話聞くことで、視野が広がって、就職先の選択肢も増えると思います。

また、このように先生方には毎年、実習やルーブリック評価、反省会など、学生たちのためにたくさんの準備をいただいている、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

野呂先生は言葉の研究者

野呂先生 まだ僕が愛知県で前の仕事をしていたときに、地域に住んでる外国の人たちに日本語を教えるボランティア教室ってのがありましてね。ちょっと参加してみようかなと思って参加したんです。最初は普段日本語を話してるんだから、別にその通りに教えればいいだろうと思ったら、やっぱり知識がないと教えられない。そこで興味を持って日本語学を学び始め、大学院まで行ってしまいました。

言葉の力を大切に

学長 最近の学生さんって、独特のくだけた話し方をしますよね。社会に出たら、やっぱりきちんと敬語で話すべきなんじゃないでしょうか。それとも、ある程度フランクに話してもいいものなんですか。

野呂先生 最近の学生さんの中には、「違わない?」のことを「違くない?」と言うように、動詞を形容詞っぽく言う人もいます。言葉は時代とともに変わっていくものですが、話すときには「いつ・どこで・だれと話しているか」を考えることが大切です。とくに、敬語などの基本的な話し方がきちんとできていることは、とても大事です。そのうえで、たとえば雑談のようなくだけた場面では、上司に対しても少しフランクな言葉で話してもよいこともあります。

短大と四大の違い

野呂先生 私がオープンキャンパスでよくお話しするのは、4年制の大学は、ひとつの分野を深く学ぶ場所だということです。それに対して、短期大学は、将来の仕事にすぐ役立つような力を、広くバランスよく学ぶ場所です。だから、自分の将来についての考えに合わせて、4年制大学に行くのもいいし、短期大学に行くのもいい。それぞれに良さがあると思います。

高短の魅力

学長 先ほどもお話ししましたが、高短では専門的な知



識やスキルだけでなく、社会に出てから必要になる「人としっかり話す力(コミュニケーション力)」や「協力して働く力(チームワーク力)」もしっかり身につけることができます。さらに、「社会体験実習」などを通して、実際の仕事や職場を体験し、いろいろな仕事を知ること、就職先の選択肢が広がりますし、「将来はこんな仕事がしたい」というイメージも、より具体的に描けるようになると思います。

野呂先生 高短の良いところは、先生や職員の方が学生のことをとてもよく見てくれているところです。先生たちは、授業でわからないことがあったときや、ちょっとした悩みがあるときにも、すぐに相談に乗ってくれます。大学の規模が小さいぶん、先生と学生が関わる機会が多くて、そうしたあたたかいサポートができています。

また、職員の方たちも、学生一人ひとりが「心も体も元気に」大学生活を送れるように、いろいろなサポートをしてくれています。たとえば、保健室では体のこと、学生相談室では学生生活や友だちとの関係のこと、カウンセリング室ではいろんな悩みを安心して相談することができます(もちろん、話した内容は秘密にしてくれます)。また、特別な支援が必要な学生にも、きちんと対応しています。

このように、高短には、学びの面だけでなく、学生一人ひとりの性格や個性を大切にするサポートの仕組みがあります。だから、学生のみなさんには、きっと充実した2年間を過ごしてもらえと思っています。

AI(人工知能)時代に 求められる力と高短での学び

野呂先生 これからはAIがもっと使われるようになって、パソコンで文章を作るような仕事は、AIがやってくれるようになるかもしれません。そうなると、オフィスで働く人には、AIにとって苦手な「人としっかり話す力」や「みんなと協力して働く力」をしっかり身に付けることが大切になってくると思います。

学長 これは、高短が大切にしている「やわらか心」ともつながっています。「やわらか心」とは、自分の価値観や意見を持ちながらも、他の人の考えや立場も受け入れる心の広さのことです。そんな心を持っていれば、お客様に提案するときや、会社でいろいろな人の意見をうまくまとめるときに、AIには出来ないような素晴らしいアイデアがきっと生まれると思います。

野呂先生 AIの時代だからこそ社会が求める、まわりの人とうまく関係をつくりながら、やさしくて思いやりのある「やわらか心」を持った学生を、高短ではこれからもどんどん育てていきたいと考えています。

(聞き手 大野 照文)

子ども学科



子どもたちのワクワクを引き出す保育

子どもたちが「ワクワク」できるような主体的で創造的な保育は、未来を切り拓く力の土台となります。そのためには子どもたちが自ら考え、試し、発見する喜びを支える環境が不可欠です。「たかたん」ではそうした保育を実現できる専門性と感性を持った保育者を育成していきたいと考えています。まずは学生さんがワクワクを体験し、面白い!やってみよう!子どもたちにも体験させてあげたい!という思いを持つことからスタートです。そのためにいろいろな取り組みを始めています。まだまだ試行錯誤の部分もありますが、子どもたちの笑顔と無限の可能性への架け橋になれるようこれからも取り組んでいきたいと思っています。

(子ども学科長 長倉 里加)

「たかたん保育特別演習」始まりました！

令和6年度後期に自然保育、子育て支援、保育教材をテーマとした3科目が「たかたん保育特別演習」と称し開講しました。1年生からの学習、実習を経て、学生自身がさらに関心ある分野を深められる科目と位置付けています。「自然保育」では、「自然体験活動指導者(NEAL)資格」取得も目指しながら、保育の場で自然と子どもを繋げられる活動や受講学生が企画した活動を行いました。「子育て支援」では、学内の「おやこひろばたかたん」での子育て支援活動の企画・準備・実践・振り返りを行いました。また、津市内の子育て支援センターにも見学に行きました。「保育教材」では、講師(浦中こういち先生)の絵本・遊び作家として、また保育現場の表現活動講師ならではの視点で授業が展開され、保育者としての教材の活かし方がイメージしやすい内容でした。今年度も保育現場で実際に活かせる「たかたん」ならではの授業を行っています。



(子ども学科教授 福西 朋子)

つるみね保育園(鹿児島県)研修に行きました！

2025年2月24日(月)・25日(火)に鹿児島県鹿屋市にあるつるみね保育園(杉本正和園長)へ、福西朋子先生・青木信子先生・林の3人で研修に行ってきました。2月末の鹿児島にも関わらず、空港へ到着したばかりの時には雪がちらついていて、かなり寒い日でした。つるみね保育園では、9割のアナログと1割のデジタルを意識した保育実践を行っています。保育におけるデジタルの活用方法について学ぶよい機会となりました。

デジタルを活用した保育実践を紹介したいと思います。プレゼンタイムという取り組みです。子どもが友達に紹介したい写真・動画をプロジェクターに映して、プレゼンするというものです。この日プレゼンしていたのは、5歳児の女の子です。祖母につくってもらった着物を着ている自分と着物の花柄を友達にプレゼンしていました。プレゼンが終わると質問タイムです。子ども同士のやりとりが面白いです。友達から「この服は何円で売ってましたか」という質問がありました。この瞬間にまわりからは笑い声が響いていました。「おばあちゃんがつくったので、お金とかはかかりませんでした」という女の子の返しもよかったです。そして、Suno AIというアプリを使っただけの園歌の作成は、かなりの衝撃でした。三週間前にできたにもかかわらず、子どもたちがしっかりと歌える姿に驚きました。意見交換の場では、9割のアナログ保育と1割のデジタル保育ということで、1割のデジタルが入ることで保育内容のメニューが圧倒的に増えるということを伝えさせていただきました。

今回学ばせていただいたことは、今後の研究や授業で活用させていただきます。園長先生をはじめ職員のみなさまには、お忙しいなか、受け入れていただき感謝の気持ちでいっぱいです。



少し遠いところではありますが、興味を持たれた方は視察に行かれることをお勧めします。これからの保育について考えるよい機会となると思います。

(子ども学科准教授 林 幹士)

育児文化研究センター

本センターでは、地域子育て支援事業として、学内で「おやこひろばたかたん」を開催しています。

令和6年度の後期から、たかたん保育特別演習「子育て支援」の授業が始まり、「おやこひろばたかたん」での実践を継続的に行っています。継続的に行うことで、「前回うまくいかなかったことを今回は改善しよう」とか「繰り返し経験することで、緊張せずに保護者の方とかかわることができるようになってきた」などの『経験の積み重ねによる自身の成長』を実感できるようです。

今後も「おやこひろばたかたん」を『親子の憩いの場』



であり『学生の学びの場』として、地域に開放していきたいと思っています。

また本年度はセンター主催事業として音楽のアトリエMUSICANOによる「親子で楽しむ はじめて★おんがく会」を行いました。親子でソプラノやバイオリン、ピアノなどの本格的な生演奏に触れ、とても贅沢な時間を過ごしていただくことができました。何より、静かに聴くのではなく一緒に遊びながら楽しむことができ、幼い子を持つ家庭にとっては嬉しいポイントだったと思います。ホンモノに触れた経験は、大人になっても心に残ることでしょう。

(育児文化研究センター長 青木 信子)



委託訓練生の学生さんにインタビュー



子ども学科2年生
菅沼 優里奈 さん
笠原 恭子 さん
福山 明日香 さん
中嶋 裕美 さん
(左から)

本学では委託訓練生として社会人経験のある学生さんも学んでいます。社会人経験を経てどのような学び直しをされているのでしょうか。4人の学生さんにお話をうかがいました。

●学び直しのよいところはどんなところですか？

授業で新たな知識を得られることはもちろんですが、周りの学生の意見を聞ける機会も多く、自分自身では想像していなかった視点や考えを知ることが出来る点はいつも刺激もらえています。(菅沼さん)

●実習をやってみた感想について教えてください

教育実習と保育実習を通して学んだことは「1歩、2歩下がって、子どもを見守る大切さ」です。子育ての経験からどうしても子どもにすぐ、手を差し出してしまいます。困った時こそ、子どもは考える力を養い、自分を強くし、成長に繋がるの

です。すぐに手を差し出すのではなく、1歩2歩下がりがあたかく見守ることが保育者としてのあるべき姿だと学びました。実習先で教えていただいた「子どもたちは、毎日の気づきで出来た薄いベールの積み重ねでたくさんの学びを得て成長していく」という言葉を胸に、これからも子どもたちと一緒に成長していける保育者になりたいです。(笠原さん)

●好きな授業は何ですか？

私の好きな授業は、「音楽表現技術」です。この授業は、子どもの頃に帰ったような気持ちになり、とても楽しい時間です。また、ピアノの個人レッスンもあります。先生方が親身になって丁寧に教えてくださるので、自然とチャレンジ精神が芽生えます。(福山さん)

●高田短大での生活について

久しぶりの学校生活で不安もありましたが、訓練生のメンバーはいつも明るく元気をもらい毎日楽しく過ごしています。テスト前や実習で大変な時もありますが、みんなで情報共有をしたり励ましあったりして助けられています。(中嶋さん)

※委託訓練とは、一定の条件を満たす方が三重県の指定する機関で勉強し国家資格を取得し正社員での就職を目指す制度です。

卒業生からのメッセージ

- ①勤務先・進学先 ②就職して嬉しかったこと、辛かったこと ③将来の夢 ④高田短大とは ⑤後輩へのメッセージ

保育者になった今

子ども学科 令和6年度卒 江川 果穂

①四日市市立桜こども園 ②素直で無邪気な子どもたちと毎日関われることです。毎日、その日の子どもへの関わりを振り返りあの時の私の関わり方は良かったのかな、と悩み反省することもあります。毎日違う景色を見せてくれる子どもたちが大好きです！③子どもたちのやりたいことをのびのびとできる環境をつくり、共に楽しめる保育者になることです。大人の都合で自由な発想をもつ子どもたちを制限する、ということがないように子どもを尊重する保育者を目指しています！④保育者という同じ夢に向かってる者同士、助け合える環境だと思います。互いの想いがあるからこそ辛い時は慰め合い、嬉しい時は喜び合う仲間がいる場所だと思います。⑤社会人になると休日でも頭の片隅には仕事があったり、友達と予定が合いにくくなったりとプライベートを充実させることが難しくなります。なので、学生の間に沢山思い出を作ってくださいね！



在学生の声

実習を通して学んだこと

子ども学科2年 宮元 彩花

高田短期大学に入学して一年が経ちました。講義や実習を通して、たくさんのことを学びました。初めての实習では、子どもたちとどのように関わったらいいのか、部分実習はどのようにすれば良いのかなど不安が沢山ありました。しかし、いざ実習が始まると子どもたちは沢山話してくれて、楽しく実習をすることが出来ました。その中で、子どもたちの発達段階に応じた関わり方や、保育者同士の連携の大切さ、子どもたちの気持ちを理解し共感することの大切さを学びました。また、子どもたち同士のトラブルへの対応や、声のかけ方についても学ぶことが出来ました。

実習を通して学んだことをこれからの実習や保育現場でも活かしていきたいと思っています。



キャリア育成学科 オフィスワークコース



三重の方言に関する調査結果をまとめました(野呂ゼミ)

日本各地にはその土地ならではの言葉遣いがあり、他の地域にすむ人には通じないことが多いです。昨年度の野呂ゼミ1年は、自分たちが普段使っている言葉の中から、他県や県内他地域の人に通じなかった言葉について分析・考察した結果を報告書にまとめました。取り上げた言葉は「ずつない」「ごうわく」「おだつ」など15語です。その語がどのような場面で用いられているかを考え、共通語との違いや学生の間での認知度について調査しました。自分たちの学びの成果が形となったことに達成感や充実感を感じていることと思います。今後、就職活動での自己PR等で活用することを期待しています。



(オフィスワークコース教授 野呂 健一)

オフィスワークコースセミナー連続講座 今さら聞けないパソコン基礎講座(川喜田ゼミ)

川喜田ゼミでは、キャリア育成学科オフィスワークコースセミナーとして公開の「連続講座 今さら聞けないパソコン基礎講座」を実施しました。この講座は8月、2月の2回連続講座で1回目は2年生、2回目は1年生が運営しました。

学生たちはパソコンサポート体験を通し「目上の方への丁寧な接遇の実践」をねらいとしています。今回は地域の方を対象に、Word・Excel・PowerPointの活用方法について学んでいただきました。参加者の方からは「次回が待ち遠しい」「学生さん、ナイスサポート!」という励みになる言葉をたくさんいただきました。今さら聞けないパソコン基礎講座は令和7年度も実施いたします。学生たちの学びを地域に還元する場として取り組んでいきます。



(オフィスワークコース教授 川喜田 多佳子)

チームプロジェクト演習Ⅰ・Ⅱ

「チームプロジェクト演習Ⅰ・Ⅱ」は、津市の地域資源が持つ魅力を若者目線でデザインし、オフィスワーカーとして求められる企画立案能力の確立を目指す科目です。令和6年度から、「地域に必要とされるゴルフ場の実現」をテーマとして掲げ、ロストボールを地域通貨として活用するプロジェクトを検討しています。そこで、実際のゴルフ場で授業の成果を報告したいと考えていたところ、本学が令和6年度まで新入生研修でお世話になったココパリゾートクラブ様からご快諾いただき、令和6年7月20日(土)に、チームプロジェクト演習Ⅱの報告会を白山ヴィレージゴルフコースで実施しました。当日は、副支配人の後藤様にアドバイザーをお願いし、「ゴルフ場が抱える課題に関して、短い期間で深く調べられている」「当初はもとより、行政にも相談して地域のゴルフ場全体で実現すべき取組が含まれている」とご意見を賜りました。現在、プロジェクトは後輩へ引き継がれ、実現可能性を高めている最中です。



(オフィスワークコース講師 伊東 秀幸)

地域での取り組み 一身田寺内町との連携事業(江淵ゼミ)

2024年7月12日(金)に江淵ゼミの2年生が「一身田寺内町 調査報告 ～学生の気づきから～」と題して報告会を行いました。当日は、地域や津市役所の方に参加いただき、これまでの地域経済や一身田寺内町に関する調査、学びの集大成として学生が報告を行いました。一身田寺内町の強み、特色といった現状分析を土台に、住民・観光客ともに住みよい、訪れ心地のよいまち、に向けた施策案について報告しました。参加者の皆さんからは、地域と観光をめぐる現状、商店の顧客層や地域のイベントのことなど、学生とのディスカッションを交えながら詳しくお話いただきました。



(オフィスワークコース助教 江淵 剛)

オフィスワークコース 就職活動の取り組み



●キャリアガイダンスⅡ 第8回授業 個人面接の練習

2025年1月31日(金)、1年生を対象にキャリアガイダンスⅡが開催され、今回は、個人面接練習が行われました。学生は、入退室と1分間自己PRを実践し、キャリア支援センターのスタッフの方とコース教員に個別指導を受けました。

時には先生方からの厳しいお言葉もありましたが、就職活動を乗り切るための有難いお言葉だと、学生は真摯に受け止めて頑張っていました。



個人面接練習の様子

●キャリアガイダンスⅡ 第10回、第11回授業、 第12回授業 集団面接の練習、メイクアップ講座

2025年2月13日(木)、1年生を対象にキャリアガイダンスⅡが開催され、今回は、午前中に集団面接練習、午後にメイクアップ講座が行われました。集団面接練習で学生は、受験者、面接官、フィードバック役の3つの役割を体験することで、他人の面接の様子を見て様々な気づきを得ることができました。

メイクアップ講座では、化粧品メーカーの講師から人に良い印象を与えるメイクについて学びました。メイクと

言うと、女子学生が中心と思われがちですが、男子学生も積極的に参加していました。特に、講師からのスキンケアの重要性に関する説明は、女子学生だけでなく、男子学生からも、良い勉強になったとの感想が述べられています。



午前中の集団面接練習の様子



午後のメイクアップ講座の様子

卒業生からのメッセージ

- ①勤務先・進学先 ②就職して嬉しかったこと、辛かったこと ③将来の夢 ④高田短大とは ⑤後輩へのメッセージ



キャリア育成学科オフィスワークコース 令和6年度卒 **千葉 琴心**

①株式会社三重平安閣 ②私は今、結婚式や葬儀などの研修を通して、人生の節目に携わる仕事の奥深さ、人の思いに寄り添うことの大切さを学んでいます。嬉しかったことは、実際の式やご案内の場に立ち合わせていただく中で、お客様の「ありがとう」や安心した表情を目にできたことです。ただ、覚えることはとても多く、慣れない言葉や動きに戸惑うこともあり、不安や緊張の連続でしたが、先輩方が励ましてくださり自分のペースで学べる環境があることをとても心強く感じます。③お客様一人ひとりに安心と感動を届けられるスタッフになることです。人生の大切な場面に寄り添える仕事に誇りを持ち、先輩方のように信頼される存在を目指して努力を続けていきたいです。④就職に関する情報が豊富で、先生のサポートが手厚く、進路相談にも親身に対応してもらえます。自分に合った就職先を見つけやすい環境です。⑤社会人になると友達と会う機会も少なくなります。今のうちに友達と楽しい時間を過ごし、たくさん思い出を作ってください。遊びも学びも大切に充実した学生生活を送ってください。

在学生の声



1年を振り返って

キャリア育成学科

オフィスワークコース2年 **犬伏 美結**

この1年間はとても早く、とても充実した1年間になったと感じています。授業では専門的なものもあり、難しいときもありましたが、どれもが検定対策であったり、就職活動をするうえで活用できることだったり自分を成長させる1年でした。

私は、授業と並行して検定取得にも力を入れ、4種類の資格を取得することができました。その中でも特にパソコン関係の資格は苦戦しました。私はパソコン操作が苦手な人一倍覚えることに時間がかかりました。空きコマとにかく回数をこなしたこと、先生に添削していただいたことが私の力となりよい戦力となっています。

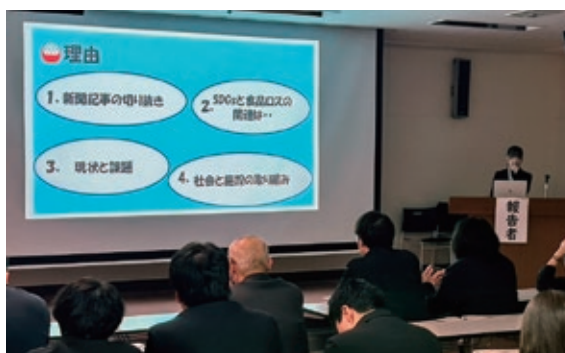
2年生では、検定取得に加えて、ボランティア活動、学生自治会の活動も頑張りたいと思います。

キャリア育成学科 介護福祉コース



ゼミナールⅢ報告会

令和6年12月25日にゼミナールⅢの報告会が行われました。これは、2年間での学びの集大成となる報告会です。各学生が介護や福祉にまつわるテーマをそれぞれ設定し、そのテーマに沿って様々な手段で調べていき、各ゼミから代表学生8名が発表をします。「介護施設での食品ロスについて」や「介護美容について」などのテーマで発表が行われ、準備から発表に至るまで真剣に取り組む様子がうかがえました。授業や実習以外で主体的に学ぶことができる教育活動になったと思います。

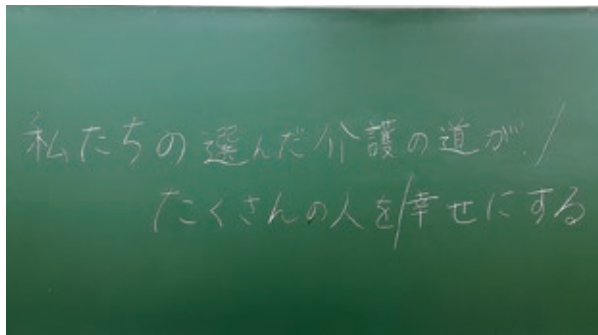


介護施設でのフードロスについての発表



短期大学の魅力の1つです。

番組では、介護のやりがいや訓練制度の紹介を通じて、福祉を志す方々へのメッセージが発信されました。本学では、年齢や経歴の異なる学生が共に学び、地域に貢献できる介護福祉士の育成に取り組んでいます。



打ち合わせを行い万全の体勢の森田さん

(介護福祉コース助教 東海林 藍)



先輩の発表に積極的に質問をする1年生

(介護福祉コース講師 長谷川 恭子)

介護の魅力を電波にのせて ～FMみえに本学学生が出演～

令和7年3月4日(火)、FMみえ「レディオキューブ」にて、三重県介護福祉士養成施設協議会の広報事業として番組収録が行われました。「介護の魅力」を伝えることを目的に、県内の養成校の学生や教員の声が紹介されました。

本学からは、2年生の森田由美子さんがゲストとして出演。森田さんは県の委託訓練制度を活用して学んでいる社会人学生でもありました。卒業課題ではアニマルセラピーを取り上げ、動物に癒された経験から、動物の力について学びを深めてきたと語りました。こうした自分の興味関心を深めることができるのも高田

特別養護老人ホーム報徳園を見学 ～学生たちが現場で感じた“関わり”の第一歩～

介護実習に向けた事前学習の一環として、施設見学を実施しました。今回は、特別養護老人ホーム報徳園と併設のデイサービスを訪問し、学生たちは日常の介護の現場を自分の目で見て、肌で感じる貴重な機会となりました。

見学中、利用者様との直接的な関わりはあいさつ程度にとどめましたが、それでも多くの学びがあったようです。特に印象的だったのは、教員が利用者様に自然に話しかける様子を見て、「すごい」とつぶやいた学生の姿でした。普段は教室で活発に発言する学生でも、初対面の方に声をかけることには緊張や戸惑いを感じていることがわかりました。

とはいえ、介護の現場では、言葉を交わすことそのものが信頼関係をつくる第一歩です。実習を重ねる中で、学生たちは少しずつ自然に会話ができるようになり、表情やしぐさから相手の思いをくみ取る力も育まれていきます。

今回の見学は、学生たちが「関わること」の意味を改めて考えるきっかけとなり、介護福祉士としての一歩を踏み出す貴重な時間となったのではないのでしょうか。教員一同、実習での成長を楽しみにしています。

(介護福祉コース助教 東海林 藍)

④ 介護福祉研究センター

●介護福祉セミナー

昨年4月から本学教員として着任され研究員でもある東海林藍先生から「足(爪)と靴から見直す介護予防～健康の土台は足から～」というテーマで、わかりやすく楽しく講義していただきました。身体を動かすことや運動することは大切だが足に巻き爪や陥入爪、外反母趾等のトラブルがあるとバランスがうまく取れなかったり、痛みが生じたりして転倒につながり、健康が損なわれる恐れがあります。しっかり足をみてきれいに洗って爪や皮膚を手入れしていくこと、足や足指の簡単な体操を始めることで介護予防を行う大切さを学びました。



新聞紙を足指で丸めたり、広げたり、畳む体験をしましたが、思っていた以上にむずかしく足指を上手く使えていないことを実感しました。靴の履き方等の実践もあり、足を見直す機会になりました。

●幼児向け 認知症サポーター養成講座

今年2月、まつさか幼稚園に介護福祉コースの学生3名と教員2名で行ってきました。

ぞう組(年長クラス)32名の皆さんに、高齢者の身体の変化や認知症の症状、認知症の方との関わり方を寸劇、パワーポイント、クイズにて説明をしました。最後には、松阪市のキャラクター「ちゃちゃも」に登場してもらい、楽しみながら学ぶことができました。

話の内容は、絵本を作成し子供たちに配布しました。三世帯同居が少なく、高齢者と日常的に接する機会は減っています。親子で絵本を読みながら高齢者の特徴や認知症の話をしてもらえるきっかけになればと思っています。



幼児向けの認知症サポーター養成講座はあまり開催されておらず、少しずつの積み重ねではありますが、「地域で共に安心して暮らせる社会」を目指して、これからも種まきをしていきたいと思っています。

(介護福祉研究センター長 上山 由紀子)

④ 外国人留学生支援室

●外国人留学生支援室の紹介

令和7年度の本学の外国人留学生は2年生が9名(ネパール人8名、スリランカ人1名)、1年生は11名(ネパール人8名、スリランカ人3名)です。介護福祉コース18名、オフィスワークコース2名となっています。

外国人留学生支援室では留学生の日本語学習サポートや、授業での日本語補助等の学びへの支援、施設奨学金の紹介等を行っています。

(外国人留学生支援室長 大橋 一喜)



日本語能力試験に向けた勉強会もしています

卒業生からのメッセージ

- ①勤務先・進学先 ②就職して嬉しかったこと、辛かったこと ③将来の夢 ④高田短大とは ⑤後輩へのメッセージ

一人の介護福祉士として

キャリア育成学科 介護福祉コース 令和6年度卒 **上西 郁菜**

①明和町社会福祉協議会 デイサービス 明和の里 ②就職して嬉しかったことは、利用者様に「ここ(デイサービス)に来るのは楽しいわ」と言ってもらえたり、職場で先輩職員や他職種の職員が、介助方法での疑問や不安に思うことに対して丁寧に教えてもらえることにより、日々の学びがあることです。③利用者様に毎日楽しく、安全に過ごしていただくために、安心して介護を任せて頂いたり、デイサービスで過ごしていて「楽しい」と思ってもらえるような、信頼のできる介護福祉士を目指しています。④高田短大は介護の知識・技術を楽しく学べるだけでなく、友人同士の勉強がやりやすく、先生にも相談がしやすいので学びに繋がりがやすい場所です。⑤2年間という時は意外とすぐに過ぎてしまいます。後悔の無いように楽しく過ごしてください。



在学生の声

1年で学んだこと

キャリア育成学科

介護福祉コース2年 **中林 真唯**



高田短期大学に入学して1年が経ちました。この1年間で印象に残っていることが2つあります。1つ目は介護実習です。私は介護の経験がなく、とても不安でしたが、学校で学んだ事を活かしたり、実習先の職員の皆様に支えていただいたりして、無事に終えることが出来ました。2つ目に文化祭があります。私は副リーダーとしてゼミのメンバーと話し合い、多くの人に楽しんでもらえる出し物を考えました。また、友人とキッチンカーや他のゼミの出し物を回ったこともとても楽しかったです。

2年生となり、就職活動や、介護福祉士の国家試験対策など1年生より忙しくなっていくと思います。それでも学生最後の1年をより楽しめるように明るく過ごしていきたいと思います。

仏教教育研究センター

昔、読んだ書物の中に、次のような会話がありました。
「あなたは何ですか？」
「人間です」
「人間とは何ですか？」
「考えてみます」
「考えてわかることですか？」

「人間」という言葉には、どのような意味があるのでしょうか。「人間性」、「人間味」、「人間らしさ」などの派生語があり、「人で無し」とか「あなたには人の心があるの!？」という厳しい使い方もあります。人間が人間であるためには、何が必要なのでしょう。

また、先ほどの会話と同様に、

「あなたがいる高田短期大学とは、どのような学校ですか」と問われた場合、どう答えたらいいのでしょうか。同じ学科の他の短期大学とは違って、高田短期大学が高田短期大学である独自性は何でしょうか。それは、人が人の心を持って人であるように、建学の精神、建学の心があってこそ高田短期大学であります。

その建学の精神とは、本誌の『本山参詣と仏教行事』でも述べましたが、親鸞聖人が学ばれたように、「この私」も仏教の学びの中で「ほんとうの人間になっていく」ことであります。

仏教教育研究センターは、学内にある他のセンターと同様に「地域連携施設」であります。

その主な活動は、本学の建学の精神である仏教の学びが、学内だけに留まらず、学外の地域の方々にも広がることを願っての、様々な講座の開催です。年齢は問いませんので、学生の皆さんも参加できます。

「現代学生百人一首」(東洋大学主催)には、「定期券見せて改札通る時言葉にならぬ誇らしさ」(80歳・夜間中学校)、「大雨の道を急ぎて学校へぬれた教科書胸にだきしめ」(60歳・定時制高校)とありました。

仏教教育は生涯学習です。センターの講座に来られる方は熱心ですし、輝いておられます。

(センター長 松山 智道)



本山参詣と年四回の仏教行事について

本学では、入学式後、新入生は高田派本山専修寺へ移動して、本山参詣が行われます。本学では仏教行事を通して建学の精神を身につけますが、本山参詣はその精神発祥の地を訪ねるものです。

今年も、新入生は親鸞聖人座像が安置された御影堂に入り、清水谷正尊学長から、本山の歴史、御影堂と如来堂(阿弥陀如来立像が安置されたお堂)の説明を聞きました。二つの大きな御堂の建立と維持は、阿弥陀如来のお心と親鸞聖人のお心を護り伝えようとされた先人の多大なるご苦勞の歴史の象徴であり、新入生もその御堂に座して手を合わせ、今後の仏教行事で唱和する読経や仏教讃歌の練習もして、建学の精神を身につけるスタートとなりました。

本学の建学の精神は、身近な言葉で言えば「ほんとうの人間になる」ことです。学生も教職員も、仏教が説く慈悲と智慧の学びの中で、相手を思いやる優しい人、生きる意味や人の尊さが分かる賢い人、そういう「ほんとうの人間」に成っていくのです。

仏教行事では、「聖歌隊」が仏教讃歌を会場内に響かせ、その歌声に身が包まれますし、今年五月の「宗祖降誕会」では、千草篤磨先生(報徳園園長、本学名誉教授)から「カルト宗教とマインドコントロール 親鸞聖人の時代と現代社会」と題したお話を聞くことができました。このように、建学の精神が自然と身に染みこむ時間と空間、それが仏教行事であります。

聖歌隊▼



千草先生のお話▲



(仏教行事委員長 松山 智道)

研究余滴

度数調整の研究

私の研究を一言で表すと、未だ見ぬ新たな景色を求める旅だ。コンフォートゾーンに立つ人々から見れば、理解し難い研究かも知れない。ただ、そこを含めて人々のまなざしがある。

これまで、高校生として会計学、学部生として経済学、大学院生として法律学、高等学校の教員として観光学、そして現在は短期大学の教員として経営学の展望台から経済事象を眺めている。同一の経済事象に対してまなざしを向けているにもかかわらず、各展望台に立つ人々の総意は異なっている。

今般、英文で執筆した論文を紀要へ投稿したことも相まって、英文の先行研究に触れる機会が増えた。それは、日本型意思決定システムの研究に至る手掛かりを私に与え、非日常から日常を見る度数調整の意義を改めて感じさせた。

反面、心理的安全性が高い環境こそ、パフォーマンスの向上に寄与することが既存の研究から提唱されている。わが国に真のコンフォートゾーンが形成されることを願い、この終わりのなき旅を続けていく。

(キャリア育成学科講師 伊東 秀幸)



学生相談室 保健室 カウンセリング室



学生相談室より

学生相談室は、みなさんが大学生活を送る中で相談したいことができたときに、一緒に考え、少しでも充実した学生生活を過ごせるようサポートしています。誰かに聞いてほしいけど…そんなとき気軽に学生相談室を訪ねてください。グループでの相談や電話やメールでの相談も受付ています。

決して一人で抱えこまずに、不安や悩み、心配ごとを学生相談室で一緒に解決していきましょう。

学生相談室は、2号館1階保健室隣にあります。

TEL:059-232-2310(代表)

E-mail:gakuseisoudan@takada-jc.ac.jp

(学生相談室 野崎 千恵)

保健室より

保健室では、皆さんが健康で充実した学生生活を送るようお手伝いをしています。

学校でケガをしたり体調が悪くなったときには、応急処置を受けたり休養ができます。

健康診断結果に対する保健指導や日々の健康相談を通して、より健康になるためにはどうすればいいかを皆さんと一緒に考えていきます。体調面で心配なことがあれ

ば保健室に相談してください。

(保健室 富永 礼子)

カウンセリング室より

カウンセリング室は、皆さんが学校や日常生活で抱えている問題や悩みについて話したり、解決や改善に向けてカウンセラーと一緒に考えることができる場所です。

今、皆さんは、自分がどのような人間であるのか、将来どのようになりたいのかななどを考え、自分の価値を見出す時期に差しかかっています。ともすれば、その過程で、自分と他の人を比較して苦しんだり、考えや価値観の違いで傷ついたり、関係性に悩むことも多いのではないかと思います。

つらい時、他の人に話すことで、ほんの少しところが楽になります。カウンセリング室は、皆さん方がほっとできる場所でありたいと思っています。もちろん、相談の秘密は守られます。

カウンセリング室の場所は、2号館2階です。気軽にお立ち寄りください。



(カウンセリング室 亀山 裕美子)

図書館公開講座を開催

図書館主催の公開講座を実施しました

2024年度も、例年好評の高田短期大学付属図書館公開講座「図書館司書と楽しむ文学とおしゃべりの講座」(全3回)を開催しました。18人のかたがたに3回通しでご出席いただきました。

10月実施【第1回】「柳宗悦と朝鮮半島 - ことばを通じて多様性を考える」では、民藝運動で知られる思想家の、朝鮮の人々へのまなざしを読み取るとともに、李正子さんら朝鮮半島にゆかりのある作家・歌人の作品についても取り上げました。

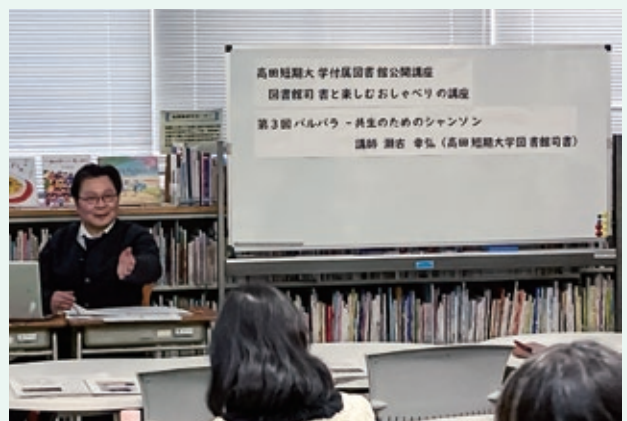
11月実施【第2回】「伊勢物語 - 『むかしをとこ』の熱量、その根源にあるもの」では、三重県に関係する段や、全体的な流れにも触れながら、主人公の、その情熱的な人物像について考えました。

2月実施【第3回】「バルバラ - 共生のためのシャンソン」では、波乱の人生を送った彼女の、今なお折に触れ

て人々に歌い継がれている代表曲や、影響を受けたと思われる日本の曲について、歌詞の解釈を進めました。

全員参加の座談会では、前年度受講のかたも、初めて参加のかたも、活発にご発言いただきました。

本講座は2025年度も引き続き開催することになりました。学生の皆さんの受講も歓迎いたします。



(高田短期大学付属図書館 司書 瀬古 幸弘)

学生自治会の紹介

令和7年度の学生自治会執行部は子ども学科5名、キャリア育成学科オフィスワークコース5名、キャリア育成学科介護福祉コース1名というメンバー構成です。



令和6年度 TJC祭の様子



令和6年度 高短祭の様子



令和6年度 謝恩会の様子

今年度は4月に新入生研修、5月にTJC祭、10月に高短祭、3月に謝恩会を開催する予定です。また、抽選会等のイベントを随時企画しています。高短生の皆さん、一緒にたくさん楽しみましょう。(学生課)

部活動の紹介

●木の音って素敵だね！ カホンとギロのイベントより

昨年まで、ゼミナールや吹奏楽部のメンバーによって進めていた楽器作りのイベントの充実を図るため、令和6年度より手作り楽器サークルを立ち上げました。毎年11月恒例のカホン作りのイベントでは、吹奏楽器が得意な学生たちが中心となって、制作援助や音遊びの進行を行い、最後にプロのカホン奏者とのコラボ演奏で親子の皆さんを魅せました。また、3月に実施したギロ作りのイベントでは、オリジナルの新作絵本を初演。吹奏楽器のみならずカホンや打楽器、ヴァイオリンの得意な学生たちも参加し、めずらしい楽器の音色に子ども



もたちも興味深そうに耳を傾けていました。かえるのギロやレインボーのギロなど、ユニークなギロがたくさん出来上がりました。

(手作り楽器サークル顧問 山本 敦子)

●ボランティア部チャレンジするチャンスをつかもう！

次のような活動をしています。

- ・三重県教育委員会の高等教育機関で学ぶ学生の専門技能・知識を活かしたプログラムの実施／地域公民館、小中学校、保育園・幼稚園、高齢者向け講座の活動



- ・三重県警察本部サイバー防犯パトロール・広報活動
問合せ先／ボランティア活動支援室(杉谷 美華)
haruka@takada-jc.ac.jp

ボランティア活動支援室

●地域とつながる、笑顔に出会う。 ボランティアのすすめ

新しい一歩を踏み出し、今まで知らなかった世界へ飛び込んでみませんか？ボランティアは、地域とのつながりを深め、誰かの笑顔に出会える素敵な機会です。

「大変そう」「特別な人がすること」と感じるかもしれませんが、実は身近な活動がたくさんあります。地域のお祭り、子どもスポーツ教室、高齢者施設での話し相手など、あなたの興味や得意なことを活かせるはずですよ。

皆さんは、若い感性と行動力、学びで得た知識という素晴らしい力を持っています。地域には、皆さんの力を必要としている人や場所がたくさんあります。保育、福祉、パソコンなど、学びを活かせる分野も豊富です。

ボランティアに参加することで、感謝の言葉や笑顔だけでなく、新たな発見や出会い、社会とのつながり、そして自己成長というかけがえのない経験が得られます。

主体的に行動する経験は自信につながり、コミュニケーション能力や問題解決能力を高めます。就職活動においても、主体性や協調性を示す貴重なアピールポイントとなるでしょう。

●気軽にボランティア活動支援室へ

キャリア支援センター横にボランティア募集を掲示しています。興味のある活動があったら、2号館3階ボランティア活動支援室を訪ねてください。皆さんの積極的な参加をお待ちしています。

(ボランティア活動支援室長 野呂 健一)

サマーキャンプ2024より

鈴鹿峠自然の家 木の広場にて、キャリア育成学科オフィスワークコースの学生が、小・中・高校生を対象に「騙されないスマホ講座」を開催しました。





卒業式・入学式について



令和6年度卒業証書・学位記授与式が、3月19日(水)に挙行されました。今年度は来賓・保護者にもご参加いただき、式典を行いました。

子ども学科・キャリア育成学科あわせて222名の卒業生が、慣れ親しんだ学舎をあとにしました。

また令和7年度入学式が、4月3日(木)に挙行されまし

た。

在学生代表による献灯・献華・献香・華籠献華のあと、新入生代表による焼香、三帰依と仏式にて行われ、新入生代表者が誓詞を述べました。

子ども学科・キャリア育成学科あわせて226名が入学し、この日より新たな学生生活のスタートを切りました。

(事務局次長・総務課長 小津 美佳)



新入生研修

令和7年度の新入生研修が4月30日(水)に日硝ハイウエアアリーナで実施されました。午前中は全体で三重県レクリエーション協会主催のコミュニケーションゲームと学生自治会企画の脱出ゲームを行い、午後は各学科・コースに別れて活動しました。

●子ども学科

ゼミ対抗で綱引きや障害物リレーなどさまざまな種目にチャレンジしました。準備運動から大変盛り上がりました。



●オフィスワークコース

キャリア育成学科オフィスワークコースでは、出題された社会問題に対して各ゼミチームで知恵を出し合い、配布

されたカードの内容を踏まえて、最も実現可能でユニークな解決策を発表したゼミナールメンバーに最優秀賞が贈られるという、SDGsカードゲームを実施しました。



SDGsカードゲームで最優秀賞を受賞したチーム

●介護福祉コース



プロのヨガの先生の指導で「ペアヨガ」を行いました。2人の息を合わせてしっかりストレッチしたおかげで、この後のドッジボールも思い切り楽しむことができました。



キャリア支援センター

●キャリア支援センターとは？

キャリア支援センターは、平日8時30分から17時まで開室しています。進路相談や面接対策、ピアノの実技対策などのサポートを行っています。また、企業や園、施設の求人情報に加え、先輩方の受験報告など、就職、進学に役立つ独自情報も提供しています。教養試験対策本など、資料の貸出も行っていますので、いつでも気軽にお立ち寄りください。進路相談や試験対策の個別対応は30分単位の予約制で行っています。キャリア支援センターの受付簿で予約をとってください。電話(059-253-7000)またはメール(shinro@takada-jc.ac.jp)での連絡も受け付け



ます。また、センター内の先輩方の受験報告は、高短の歴史と伝統があってこそその独自の貴重な財産です。資料の閲覧は予約なしでいつでもOKです。

●キャリアサポーター紹介！

キャリア支援センターには、以下に示すような合計7人のサポーターがいます。保育職を目指すみなさんの強い味方となる、公立保育園や幼稚園で長年勤務し、園長経験もあるサポーター2人。公務員を目指すみなさんの強力な支援者となる、県立高等学校での経験、教員人事の経験、校長職経験のあるサポーター2人。介護職、一般企業の総合職、一般職を目指すみなさんの心強い存在となる、県内企業での勤務経験の豊富なサポーター2人。キャリアコンサルタントの国家資格を持つサポーター1人。学生全員に寄り添い、伴走しながら就職活動のサポートをこの7人でしていきます。

(キャリア支援センター長 山本 順三)

着任のみなさん



DX人材の育成をめざして

キャリア育成学科 廣田 千明

オフィスワークコースにて情報基礎演習や統計処理などの授業を担当します。オフィスでの働き方は近年大きく変化しました。新しい働き方ではパソコンの活用が重要です。パソコンを効果的に活用できる人材(DX人材)の育成に尽力してまいります。



福祉って意外と身近なもの!

キャリア育成学科 橋本 晃

今年度より、介護福祉コースで介護福祉演習や実習などを担当いたします。

「福祉」って、実は皆さんの身近な生活に関係しています。これからともに学び、介護福祉のプロを目指しましょう!どうぞよろしくお願いいたします。



心機一転!!

事務局 小津 美佳

4月より学苑本部事務局から転任してまいりました。学苑に就職後5か月間でしたが、短大事務局におりました。

古巣に戻り懐かしい反面、毎日戸惑うことばかりです。新たな気持ちで精一杯頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。



令和6年度入試広報活動と今後の活動に向けて

令和6年度の広報活動として、新たに4月にオープンキャンパスを実施したことで、多くの高校生の方に参加いただくことができました。また、先輩の意志を引き継いでいこう、と後輩学生広報スタッフも早い段階で合流し、よりパワーアップした企画展開ができました。参加した高校生から頂いた声からは、「先輩方からいただいた言葉から、本学に入学したいという思いが強くなった」というとても嬉しい声をたくさんいただくことができました。

また、高大教育交流活動として、多くの高等学校より本学への見学ツアーにも参加していただきました。また、高大教育交流校として新たな高等学校との協定も結ぶことができました。令和7年度の入試広報活動では、高大教育交流をより強化することで、より多くの高等学校とこれまでにない、新しい取り組みを行っていく予定です。在学生の皆さんの協力や行事への参加も頂けると幸いです。よろしくお願いいたします。

(入試広報委員長 川喜田 多佳子)



令和7年度 学生広報スタッフ

学生一人ひとりの思いに寄り添って

キャリア支援センター 山本 順三

4月よりキャリア支援センターで勤務をさせていただいています。これまでの県立高等学校などでの多様な教員経験を活かして、学生一人ひとりの主体性を尊重しながら丁寧に傾聴しサポートに努めてまいります。



人生の輝かしいターニングポイントへ

キャリア支援センター 山本 学

昨年10月よりキャリア支援センターで勤務しています。人生のターニングポイントをお手伝いでき光栄且つ責任の重さを感じています。相談して良かったと思われるような存在を目指し頑張ります。よろしくお願いいたします。



楽しい保育!

キャリア支援センター 橋爪 祐子

4月からキャリア支援センターで勤務しています。保育の世界で40年以上の経験がありますが、まだまだ子どもの魅力は未知数です。皆さんが、就職後保育って楽しいを感じられるようしっかりサポートさせていただきます。



夢をかなえましょう!!

キャリア支援センター 國分 由美子

今年度より、キャリアサポーターを担当します。皆さんの「夢の実現」に向けて、共に悩み、考え、喜び合えるよう、お手伝いを精一杯します!気軽に何でも話しかけてくださいね。キャリア支援センターでお待ちしています。



同窓会の近況



先日、家の近くで、小さな子どもが「イヤイヤ!」と泣き、おうちの人が困っている姿を見かけました。2歳前後の子どもによくみられるイヤイヤ期なのだろうと思い、泣いている子どもに「大丈夫ね」という思いを込めて、笑顔で挨拶をしました。

東京大学大学院の遠藤利彦先生は、『イヤ』を繰り返し、『好き』を見つける自分探しの時期、乳幼児教育実践研究家の井桁容子先生は「全力で『イヤ』と言えるのはイヤイヤ期だけ」とおっしゃってみえます。親にとっては大変な時期ですが、子どもたちが「自分探し」をしているのだと思えば、とても素敵な時だと思えます。また、私たちも、そのような素敵な時期を過ごして、今があるのだと思えば、感慨深いですね。

さて、今年度の短大部会は、これまでの活動を見直して、新たな事業を模索していきたいと考えています。短大部会の役員会で今年度に話し合ったことを理事の皆さんをはじめ、会員の皆さんにご報告できるようにしたいと思います。今後とも、短大部会の活動に、ご理解、ご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

(堀内 由香里)

人生余滴

出会いと経験が私を作る

鷲尾 敦 (本学名誉教授)

柔道漬けの大学卒業後、大学院では情報工学に専攻を変え、二足歩行ロボットの制御シミュレーションをする毎日だった。そして卒業旅行、そこで妻と出会った。これこそまさしく邂逅！人生を大きく変えた。

卒業後、システムエンジニアの道に進んだ。配属は筑波大学の研究所が九つ集まった工業技術院の情報センターRIPSでアプリ開発に従事した。日英翻訳総合システム、ケミカルヒートポンプサイクル探索システム、特許微生物寄託センターのDBなど今振り返ってもわくわくする開発に従事した。その後、妻の実家に居を移し、専門学校でビジネスアプリを指導することとなった。人に教える職業に就くとは学生時代には考えられないことだった。

31歳、高短に就職。柔道同好会を作ったり、バドミントン部の顧問となったり、練習合宿やスキー合宿、全国大会出場などで若いエネルギーを学生からもらった。教育研究では、学生の学修成果を地域に還元する「サービスマーケティング」にこだわる。学生が作成したマルチメディア作品を幼稚園に持ち込み子どもたちと遊んだ。地域公民館を

取材しての公式Web制作や、キッズパソコン教室、シニアパソコン教室を学生とボランティアの協働で運営した。そして、これらの学生の活動を評価する学修成果ルーブリックの開発を科研課題とした。さらに高等教育研究会代表として、介護実習評価

ルーブリックのIR活用をテーマとして科研に繋がった。学生との学びが研究につながりとても充実した年月であった。

短大運営ではALOとして高短初めての第三者評価を受けた。学科長としてオフィス人材育成学科への名称変更、オフィス実務と介護を社会人基礎力とキャリアデザインでまとめたキャリア育成学科の統合を進めるなどした。情報教育担当としては学生支援GP助成で高短キャンパスネットの構築を進め、学生の主体的な学習環境として学習管理システム「manaba」を導入した。これがコロナ禍の遠隔授業の柱となった。

このように、学生、高短の先輩や同僚など、多くの方々と出会い、様々な体験を積み重ねて、自分自身も成長することができた。人との出会いと仕事人が人を作るというが、まさしくそういう短大生活だった。



人 事	○退職		
	キャリア育成学科	特任教授	鷲尾 敦
	キャリア育成学科	教 授	中川 千代
	教学部長		生駒 昌之
	キャリアサポーター		佐波 睦巳
	キャリアサポーター		金森まさ子

キャリアサポーター

倉田まゆみ

○異動

学苑本部事務局より事務局次長兼総務課長へ	小津 美佳
入試広報課より学苑本部事務局総務課へ	久保田奈央

公 告

令和6年度における学校法人高田学苑の決算は次の通りですので、高田学苑寄附行為第76条の規定に基づき公告いたします。

学校法人 高田学苑
(単位: 円)

貸借対照表 (令和7年3月31日)

資産の部				負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減	科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	(7,999,005,757)	(8,074,072,220)	(△75,066,463)	固定負債	(281,897,578)	(267,134,399)	(14,763,179)
有形 固定 資産	(5,579,306,462)	(5,843,956,961)	(△264,650,499)	退職給与引当金	281,897,578	267,134,399	14,763,179
土 地	1,025,122,922	1,025,122,922	0	流動負債	(406,345,835)	(422,380,665)	(△16,034,830)
建 物	3,701,141,187	3,903,050,352	△201,909,165	未払金	63,744,986	64,146,705	△401,719
構築物	501,687,800	563,913,715	△62,225,915	前受金	252,620,000	267,645,000	△15,025,000
教育研究用機器備品	85,023,738	74,997,944	10,025,794	預り金	28,111,725	26,375,811	1,735,914
管理用機器備品	9,419,708	10,952,923	△1,533,215	修学旅行費預り金	55,896,024	58,116,024	△2,220,000
図 書	224,708,029	228,348,427	△3,640,398	卒業諸費預り金	5,973,100	6,097,125	△124,025
車 輦	2,283,600	7,651,200	△5,367,600	負債の部合計	(688,243,413)	(689,515,064)	(△1,271,651)
学苑林	29,919,478	29,919,478	0	純資産の部			
特定資産	(2,371,549,330)	(2,175,949,330)	(195,600,000)	科 目	本年度末	前年度末	増 減
退職給与引当特定資産	282,000,000	268,490,000	13,510,000	基本金	(13,122,609,574)	(13,104,500,702)	(18,108,872)
施設設備拡充引当特定資産	2,089,549,330	1,907,459,330	182,090,000	第1号 基本金	12,950,609,574	12,932,500,702	18,108,872
その他の固定資産	(48,149,965)	(54,165,929)	(△6,015,964)	第4号 基本金	172,000,000	172,000,000	0
借地権	2,257,500	2,257,500	0	繰越収支差額	(△5,335,695,344)	(△5,217,014,807)	(△118,680,537)
電話加入権	1,285,980	1,285,980	0	翌年度繰越収支差額	△5,335,695,344	△5,217,014,807	△118,680,537
施設利用権	0	71,190	△71,190	純資産の部合計	(7,786,914,230)	(7,887,485,895)	(△100,571,665)
ソフトウェア	15,960,230	21,415,020	△5,454,790	負債及び純資産の部合計	(8,475,157,643)	(8,577,000,959)	(△101,843,316)
有価証券	13,297,674	13,297,674	0				
差し入れ保証金	350,000	350,000	0				
長期前払金	14,998,581	15,488,565	△489,984				
流動資産	(476,151,886)	(502,928,739)	(△26,776,853)				
現金預金	300,889,191	374,452,119	△73,562,928				
未収入金	113,003,318	60,940,360	52,062,958				
前払金	66,000	3,243,020	△3,177,020				
立替金	324,253	80,091	244,162				
修学旅行費預り資産	55,896,024	58,116,024	△2,220,000				
卒業諸費預り資産	5,973,100	6,097,125	△124,025				
資産の部合計	(8,475,157,643)	(8,577,000,959)	(△101,843,316)				

令和6年度卒業生 就職先等一覧

子ども学科

◆私立保育園

あおい保育園、あがたが丘保育園、あけの保育園、あけほの保育園、石榑保育園、内部ハートピア保育園、えがお保育園、えがおあけほの保育園、えがお志摩保育園、エトワール保育園、河原田保育園、くすのき保育園、こっこ保育園、ことり保育園、志登茂保育園、第2長太ノ浦保育園、つくし第二保育園、とまり丘保育園、ドリームハウス保育園、西浦保育園、西田原保育園、ハートピア保育園、白鳳病院さくらんぼ保育所、ハッピーツリーモンテッソーリインターナショナルプリスクール、ひかり保育園、久居保育園、日永ハートピア保育園、船江保育園、保育所まゐと野園(埼玉県)、松阪清泉愛育園、松阪仏教愛護園、三重大学さつき保育園、三重保育院、みやま保育園、わかすぎ第二保育園、若葉保育園

◆私立幼稚園

諏訪幼稚園(愛知県)、聖ヤコブ幼稚園、第一津田幼稚園、高田幼稚園、津西幼稚園、道伯幼稚園

◆私立こども園

愛育こども園、愛華こども園、認定こども園いそやま保育園、いつきのみやこども園、認定こども園こどもの杜ゆたか園、認定こども園白百合幼稚園、高岡ほうりん認定こども園、多気の杜こども園、竹野の森子ども園、津こども園、認定こども園天満幼稚園(愛知県)、藤認定こども園、認定こども園ふたば幼稚園、ばだいじIRORI園、マリアこども園、認定こども園水沢こども園、認定こども園みらいの森ゆたか園、認定こども園めいりんこども園、認定こども園杜の街ゆたか園、認定こども園安永保育園、認定こども園ゆい保育園、認定こども園令の風

◆公立保育園

朝日町立あさひ園、伊賀市立阿山保育所、伊勢市立保育所しとり園、伊勢市立御園第1保育園、大台町立日進保育園、志摩市立うがた保育所、津市立雲出保育園、津市立こべき保育園、津市立ひとみね保育園、鳥羽市立菅島保育所、松阪市立春日保育園、松阪市立駅部田保育園、四日市市立日永保育園

◆公立保育園(臨時)

鈴鹿市立一ノ宮保育所、津市立相愛保育園

◆公立幼稚園

伊勢市立小保幼稚園

◆公立こども園

松阪市立三雲南こども園、明和町立みどりこども園、四日市市立桜こども園、四日市市立塩浜こども園

◆公立こども園(臨時)

津市立芸濃こども園、津市立一志こども園

◆公立障がい児施設

四日市市立児童発達支援センターあけほの学園

◆施設

NPO法人いろは、キッズエール桑名、里山学院、しらさぎ園、真盛学園、聖マッテヤ子供の家、天理教三重互助園、名張養護学園、放課後等デイサービス はびねす、放課後児童クラブつくし会、リズムラビット

◆企業

エバーアクション(株)、川村小児科クリニック、(株)ぎゅーとら、日本メナード化粧品(株)メナード青山リゾート、日本郵便(株)、三重高等自動車学校

◆進学

中部楽器技術専門学校

キャリア育成学科(オフィスワークコース)

◆製造業

(株)エフテック、(株)竹屋、(株)ナベカ、パイロットインキ(株)、(株)ヒサダグループ、美和ロック(株)、(株)ヨシザワ

◆情報通信業

(株)サイネックス

◆運輸業、郵便業

伊勢湾倉庫(株)、(株)日本陸送、丸加運輸(株)

◆卸売業、小売業

栄光真珠(株)、(株)新進 本の王国、日産部品東海販売(株)、日産プリンス三重販売(株)、(株)ホンダカーズ三重、三重いすゞ自動車(株)、三重トヨタ自動車(株)、三重トヨペット(株)、三重日産自動車(株)

◆金融業、保険業

北伊勢上野信用金庫、日本生命保険相互会社、(株)百五銀行

◆学術研究・技術サービス

税理士法人トータルサポート

◆生活関連サービス業・娯楽業

(株)三重平安閣、(株)リンリン

◆医療・福祉

アスト津デンタルオフィス、上島小児科、岡波総合病院、鈴鹿回生病院、日本ケアシステム(株)、はる整形外科クリニック、みどりクリニック、みやた眼科、山口歯科

◆複合サービス事業

(協組)亜細亜の橋

◆サービス業

ALSOK三重総合警備保障(株)、(株)パーソナック、百五ビジネスサービス(株)、丸ノ内ビル管理(株)

◆公務

菊陽町職員(熊本県)、三重県警察官B、四日市市職員(事務)

キャリア育成学科(介護福祉コース)

◆老人福祉施設

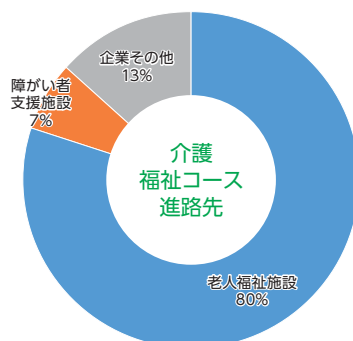
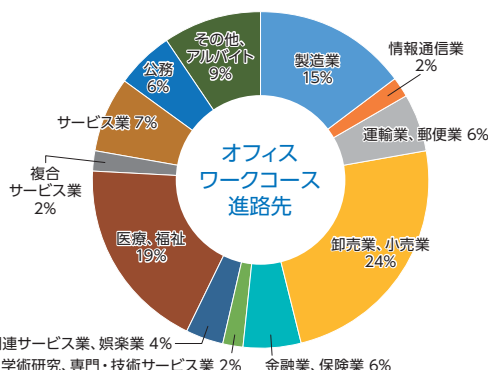
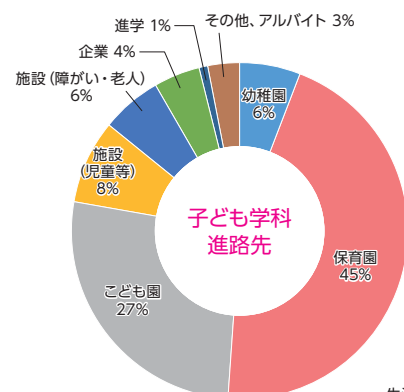
特別養護老人ホーム 愛生苑、アイリス南郊(株)介護付有料老人ホーム煌、介護老人保健施設 あろう、老人保健施設 いこいの森、介護老人福祉施設 憩いの街、ショートステイ かすみの里、特別養護老人ホーム くすのき、ケア・パートナー 森伸明野、デイサービスセンター 鈴鹿けやき苑、高田ケアハウス、デイサービスセンター くすのき、介護老人保健施設 トマト、特別養護老人ホーム 豊野みかんの里、介護老人保健施設 ながしま、特別養護老人ホーム なでしこ苑、特別養護老人ホーム 野村希望苑、大台町介護老人保健施設 みやがわ、介護老人福祉施設 明和苑、明和町社会福祉協議会デイサービス 明和の里、特別養護老人ホーム やまゆりの里、介護老人保健施設 やまゆりの里

◆障がい者支援施設

まつさか福祉会 ベルフレンド、障害者支援施設 まより苑

◆企業その他

鈴鹿中央総合病院、久居中学校(特別支援教育支援員)、松阪市民病院、三重県済生会明和病院



編集後記

高田短期大学通信第60号をお届けできることとなりました。諸事情により発行が遅くなってしまい申し訳ございません。年度初めのお忙しいところ、ご執筆いただいた皆様に心より感謝申し上げます。皆様のご協力のおかげで、本学で学び、成長し、地域に貢献していく学生さんたちの様子や、学内の取り組みをたくさん紹介することができております。今後ともご支援を賜りますよう、どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

※表紙の題字は、子ども学科2年生・浜辺妃藍さんが書いてくれました。写真には、授業やゼミナール、学校行事、休み時間の様子など、日々の学生生活の一コマが写っています。